

平成26年度

第3回千葉市農業委員会農業振興部会議事録

千葉市農業委員会

千葉市農業委員会農業振興部会議事録

平成26年11月28日千葉市農業委員会農業振興部会長 鈴木武夫 は、平成26年度第3回千葉市農業委員会農業振興部会を千葉中央コミュニティセンター2階28会議室に召集した。

＜会議に付した議事＞

議案第1号 農業経営に関する意識調査の実施について

報告第1号 インターネットモニターアンケートの実施結果について

＜出席委員＞（17名中17名）

1番 長谷川 功	2番 野 本 信 正
3番 齊 藤 元 治	4番 笠 川 泰 雄
5番 竹 下 洋 一	6番 小 川 隆 良
7番 石 橋 幹 男	8番 小 林 正 明
9番 石 橋 毅	10番 猪 野 幹 夫
11番 武津岡 広 治	12番 長谷部 衡 平
13番 大 塚 久 （農業振興部会長職務代理者）	14番 橋 本 泉
15番 鈴 木 武 夫 （農業振興部会長）	16番 浅 尾 孝
17番 宮 崎 一 雄	

＜欠席委員＞

＜事務局説明員＞

事 務 局 長 山 崎 哲 保	次 長 楠 原 弘
次 長 補 佐 御 園 えみ子	農業振興係長 小 川 剛
主 査 補 中 澤 和 美	主 事 駒 井 和 陽

議長 (鈴木 部会長)	(開会 9:30) ただ今から平成26年度第3回農業振興部会を開会いたします。 本日の出席委員は17名中17名ですので、会議は成立しております。 日程第1の議事録署名人の選任の件ですが、議席順となっておりますので、私から指名させていただきます。議席番号 3番 齊藤 元治 委員、議席番号 4番 笠川 泰雄 委員のご両名にお願いいたします。 それでは、日程第2の議事に入らせていただきます。 議案第1号「農業経営に関する意識調査の実施について」を上程いたします。 それでは、事務局、ご説明願います。
事務局	議案第1号「農業経営に関する意識調査の実施について」、ご説明いたします。 議案書1ページをご覧ください。これは、平成28年度に実施を予定している「千葉市農政に関する建議」における建議書作成の基礎資料とするため行なうものです。調査の対象ですが、建議が「中長期的な展望に立った本市農政のあり方を取りまとめ、市長へ建議する」ことを趣旨としていることを踏まえ、1. に示すように今後の本市農業の中心的な担い手となる市内在住の認定農業者及び新規就農者を対象とします。 次に実施方法ですが、アンケートは、「移動農政懇談会」のような公開の場では、発言しにくい農業者の方でも気兼ねなく意見できる利点があり、より多くの、また、より忌憚のない意見聴取ができるものと期待し、2. に示すように無記名式アンケートにより行います。 また、アンケートの配布及び回収について、より多くの方にアンケートに回答いただくことが重要であると考え、対象者へのアンケート用紙の配布及び回収を地区担当の各委員さんをお願いします。 つきましては、年明け1月中旬から下旬に該当する委員さんへご連絡いたしますのでご理解とご協力の程お願いいたします。 次に実施時期ですが、3. に示すように年明け2月第1週中にアンケート用紙を各対象者に配布し、2月13日(金)までにアンケートを回収し、結果の取りまとめを行う予定です。

次に4. 実施内容ですが、別紙1「農業経営に関するアンケート」をご参照ください。設問は、全部で11問です。[設問1]～[設問3]は、年齢層、居住地域等の基礎事項を伺います。[設問4]～[設問9]については、「市内農業者と市長との対話会」で議論された内容をベースにして設定しております。「市内農業者と市長との対話会」ですが、昨年11月に若年層を中心とした農業者を対象に開催されました。「対話会」では、「10年後の本市農業が元気であるために何ができるか」をテーマに本市農業の未来像について議論され、その結果として「農業経営のグループ化が必要」などの多くの意見を市長へプレゼンテーションも行ないました。[設問4]～[設問9]は、それらの主な意見について、改めて認定農業者及び新規就農者の方々に伺うものです。[設問10] は、昨今、議論されている「農業改革」のうち、農業委員会に係る部分について、認定農業者等が期待する農業委員会及び農業委員の役割について、忌憚のない意見をいただこうとするものです。

最後に[設問 11]は、対象となる農業者が抱える農業経営の課題、または課題解決のための提案について、伺うものです。なお、アンケートの結果については、農政部への情報提供を予定しています。議案第1号の説明は以上です。

議長

ただいまの事務局からの説明について、質問、意見等ございますか。

野本委員

アンケートの対象者についてですが、認定農業者及び新規就農者の合計220名が対象ということですか。

事務局

認定農業者及び新規就農者併せて220名を対象とさせていただきます。

野本委員

世帯数として、220世帯ということでしょうか。

事務局

世帯数が220世帯ということではありません。認定農業者の中には家族経営協定を締結されている方もいらっしゃいます。そういった方々は、1経営体と数えますので、世帯数は220よりも少なくなると思います。

野 本 委 員	新規就農者が53人となっておりますが、何年ごろから就農された方々ですか。
事 務 局	新規就農者については、事務局で把握しておりますのは、平成19年度から新規に就農された方々の人数です。
野 本 委 員	アンケートの説明の中で、市長との対話会を開催されたようですが、何回開催されたのですか。1回ですか、2回ですか。
事 務 局	昨年の11月に1回開催しました。
野 本 委 員	何人ぐらい参加されたのでしょうか。
事 務 局	農業者の方は、17名です。
野 本 委 員	参加された方からの話を伺ったところ、市長は何かブランド物はないかというような話が多かったと聞いておりますが、いかがでしたか。
事 務 局	市長との対話会の内容については、ホームページにて公開しておりますので、詳しくはそちらをご覧くださいと思います。内容としては、委員がお話しされたものもありました。後は、農業者自身が、今日の農業経営が苦しい状況を打開するための手立てについて、市長を交えて参加者皆さんで議論されておまして、参加された皆様方からは今までにない議論の場であったと、大変好評を得ておりました。
野 本 委 員	参加者の意見として、その様な話があったということと、実際に苦勞して農業をしている現場に来てほしいという話があったようです。それから、アンケートの間10についてですが、農業委員会の役割についてということで、今、改革ということで農業委員会の機能が低下させられようとしている問題について、意見をいただきたいと思います。これだけでは内容を承知していない方々がいらっしゃると思いますので、農業委員会改革についての概要等を添付した方がよいと思います。

事 務 局	この件につきましては、まだ、国の動向が見えない状況にあります。農業委員の皆様方には色々とお仕事をさせていただいておりますが、地域の活動の中で、今回アンケートする対象となります認定農業者の方々が、地域の農業振興に対して農業委員や農業委員会に対してどのような役割が求められているのか。農業委員会改革について何うというよりも、どちらかという農業委員や農業委員会に対する意見を承りたいと考えております。
野 本 委 員	そうなりますと、日頃から農業委員会が果たしている役割についてなのか、農地指導に対してなのか、農業委員に対してどうなのかなど。
事 務 局	色々な場に農業委員に出させていただいておりますが、こういったことを農業委員がしておりますよということで、農業委員会だよりを発行しておりますので、そういったものを参考にいっしょに配布したいと考えております。
野 本 委 員	もし出来れば、全国の農業委員会で農業改革について、政府に対して意見書とかを出していたりするのですか。当委員会でも出しているのですか。
事 務 局	この件につきましては、各都道府県に農業会議がございまして、千葉県農業会議が県内農業委員会の意見を取りまとめ、全国農業会議所に提出しております。
野 本 委 員	農業委員会だよりと今お話のあったものも資料として出していただいた方がいいのかなと思いますし、折角のアンケートですから、ご苦労や意見が反映されるようにした方がいいと思います。
議 長	そのほかにご意見等ございますか。
橋 本 委 員	問2のところで、あなたのお住まいの地域を教えてくださいとなっておりますが、認定農業者が市内で167名と説明がありましたが、区ごとの人数を教えてください

事務局	ますか。 ただ今確認いたします。なお、認定を受けている方の中に新規就農者がおられますので、その人数は除いてあります。
小林委員	このアンケートは認定農業者や新規就農者に限っているようですが、認定農業者になっていなくても積極的に営農している方々が地域にいますので、その様な方々に対してもアンケートをお願いするというようなことはいかがでしょうか。農業委員が地域の認定農業者のところへ伺うのであれば、その地域内の担い手から多くの意見をいただくようにした方がいいと思います。何か認定農業者や新規就農者に限定する理由があるのでしょうか。
事務局	このアンケートは、認定農業者や新規就農者に限っている訳ではありません。 一般的に、認定農業者や新規就農者は専業で頑張っていることから、お願いしようと考えたところです。
小林委員	では、農業委員の裁量で認定農業者でない方でも、地域で頑張っている農業者の方にアンケートをお願いできるように、アンケート用紙を余分に農業委員に預けていただいて、地域の担い手の農業者にお願いできるようにすることは、事務局としていかがでしょうか。
事務局	認定農業者や新規就農者に限っている訳ではありません。当初は郵送でアンケートを実施しようと考えておまして、市が行っている他のアンケートの回収率を調べたところ、大体20パーセントから40パーセントしかないことから、このアンケートの実施にあたり、地域の実情を把握されている各地区の農業委員にお願いし、より多くの意見を集約したいと考えております。 今、小林委員からご意見をいただきましたので、今日、アンケートの実施について決定いただけましたら、準備にとりかかれます。その際、アンケート用紙を余分に作成すればいいことなので、事務局ができない地区については、農業委員の方々

	に専業農家を中心に地元で一生懸命やられている方々にアンケート用紙を配布いただき、回収していただければと思います。
事務局	先ほどの橋本委員からの質問事項について、認定農業者の数ですが、中央区が4経営体、花見川区が45経営体、稲毛区が3経営体、若葉区が71経営体、緑区が68経営体です。合計で191経営体です。
議長	そのほかにございますか。 それでは他に質問・意見等がないようですので、お諮りいたします。 議案第1号「農業経営に関する意識調査の実施について」、原案どおりに賛成の方は、挙手願います。
議長	——— 挙 手 ———
議長	全員賛成でございますので、議案第1号は原案のとおり決定いたします。 続きまして、報告第1号「インターネットモニターアンケートの実施結果について」事務局より説明を願います。
事務局	報告第1号「インターネットモニターアンケートの実施結果について」ご説明いたします。 議案書2ページをご覧ください。 本アンケートは、議案書記載のとおり、本紙の農業振興を促進する観点から、農業委員会等に関する法律第6条第2項第4号及び5号に規定する「農業生産、農業経営及び農民生活に関する調査及び研究」、「農業及び農民に関する情報提供」により農業者への情報提供、また、同法第6条第3項に規定する「建議」作成の基礎資料への活用を目的に市のインターネットモニター制度を活用し実施しました。 調査は、インターネットモニター制度に登録している満15歳以上の市民を対象に、本年7月1日～10日に実施しました。 内容ですが、一般に行われる市場調査と同様の形式で、農畜産物の購入先、購

		買基準などから市民の農畜産物の購買意識及び消費者の立場から市内産農畜産物の購入促進についての考え方について調査しました。 設問は、4. 問1～問6までのとおりです。 調査の結果ですが、別紙2「インターネットモニターアンケート実施結果」をご覧ください。 概要を説明しますと日常生活における農畜産物の購入先について、約84％が「スーパー等」と回答し、購入基準として、約半数が「鮮度・品質」と回答しています。 このことから、農畜産物の購入については、食の安全についての関心が高く、かつ低価格志向であることが窺われます。 また、市内産農畜産物の認知度は高く、80％弱の方に市内産農畜産物の購入歴があることがわかりました。 最後に市内産農畜産物の購入促進に効果的な方法として、約半数の方が「一目で市内産とわかる工夫をした表示」、約35％の方が「スーパー等の取扱量を増やす」と提案をしています。 報告第1号の説明は以上です。
議 長		ただいまの報告第1号について、質問、意見等ございましたらお願いいたします。
野 本 委 員		Q1では、直売所での購入が意外と多くないようですが。例えば「しよいか〜ご」はどの分類に入るのでしょうか。
事 務 局		私どもの認識では、「しよいか〜ご」は直売所に入ります。
野 本 委 員		そうしますと、農業関係者が関心を持って進めて来られた直売所が、購入先として低いことが気になりました。
宮 崎 委 員		インターネットモニターアンケートということで、調査対象者4,004人はどういった方々ですか。

事務局	これは、千葉市広聴課というところが実施しておりまして、インターネットモニターアンケート制度がございます。この制度により、モニターを募集して、それに応募された方が4,004人おられまして、その内回答された方が1,437人ということです。
小林委員	このアンケートについて、設問に対して主に1つだけ回答するとなっているから、週に1回位しか利用しない「直売所」よりも週に数回利用する「スーパー」が一番多い結果となってしまいますよね。 二つとか選べるようになっていけば、「直売所」の利用者数も上がると思います。残念な結果ですね。
事務局	委員がおっしゃるとおりだと思います。購入する頻度が一番高いところで選ばれたと思いますので、「スーパー」が一番多かった結果となってしまったと思います。ですから、「直売所」が全く利用されていないということではないと思います。
事務局	アンケートの方法にも色々あると思いますが、今回はインターネットモニターアンケート制度を活用させていただいてところでして、特定の方をお願いしたわけではなく、顔が見えない、一方的な説明だけでの回答となりますので、比較的シンプルな回答方法として、1つだけの回答箇所が多くなっています。
石橋(毅)委員	インターネットモニターアンケートということで4,004人を対象としていますが、地区別にはどのような構成となっているのですかね。今「しよいか〜ご」が話題となっていますが、美浜区の方とか遠隔地の方は「しよいか〜ご」を利用しないわけですよね。当然スーパーが多い地区ではそこを利用しているわけですから。この結果を農業委員会として、どのように活用して農業振興に反映させようとしているのですか。 インターネットモニターアンケートも良いのですが、数字が独り歩きしてしまうと思わぬ結果になってしまうこともあります。

事 務 局	インターネットモニターアンケートを実施した経緯ですが、今までですと毎年建議を出しておりました。それも必要なことと認識しておりますが、違った側面から適正なものを作っていこうということから、昨年度の農業委員会で、建議は3年に一度にすることとなりました。その間に色々な仕組みを作っていって、それを反映できるものになりたいということがありました。その中で本年度につきましては、インターネットモニターアンケートは基礎資料の中の基礎資料として実施しました。これをそのまま建議に反映するということではなくて、こういう意見もありますよということを今後、認定農業者の方々や専業農家の方々にデーターとして示す第一段階のものです。ですから、これがそのまま建議に反映させるものではありません。今後、建議に反映させるための基礎資料のために実施したものです。
石 橋 (毅) 委 員	これはあくまでも農業委員会の調査として、今後、農政に対して働きかけるよう努めていただきたいと思います。
武 津 岡 委 員	この「直売所」は、小倉町にある農協が運営している「しよいか〜ご」のことですか。
事 務 局	個人で運営されているもの等を含んでいます。特に限定したものではありません。
齊 藤 委 員	「直売所」としては、「しよいか〜ご」が規模的に一番大きいわけですが、市内には個人でやられている「直売所」が相当な数があり、それらが含まれていると思いますが、スーパーの中にも「インショップ」という形で、農協でもベイシア、ダイエー、イトーヨーカードー等々多くのスーパーに入って農家の方が販売しています。それは一口でいうと「直売所」ではないのですけれども、農家の人が直接持込みしてそこで販売しているわけで、こういったアンケートの取り方ですと、スーパーで仕入れたものだけを購入したものとイメージを受けます。 今「インショップ」販売は相当伸びており、毎年販売額が上がっています。それだけ、消費者の方は「品質」・「安さ」を求めていると思います。こういった中、スーパー

猪 野 委 員 議 長	自体も「インショップ」販売の面積を広げてきている現状があります。 単に、スーパーで仕入れたものだけを購入している人が多いというイメージを印象づけられてしまうと、違った方向に行ってしまうと思われしますので、公表に際してはその様なことも考慮いただきたいと思います 農業振興のためのアンケートということで、今回は消費に関しての農業振興を図るためのようですが、農業生産の現場では生産資材の価格が上がっているわけで、次の課題として、こういった生産資材の価格が上がっていることについても是非お聞きいただければと思います。 他にどなたか質問、意見ございませんか。 質問、意見等無いようです。これは報告案件でございますので、ご了承いただきたいと思います。 以上をもちまして、平成26年度第3回農業振興部会を 閉会いたします。 委員の皆様には大変お忙しい中、慎重審議を賜りましてありがとうございました。 (閉会 10:10)
---	---